

映画『典座』

【第2部にて上映】



カンヌ国際映画祭 批評家週間特別招待



マルセイユ国際映画祭 観客賞



ZEN

をきく会

入場無料

主催：曹洞宗務庁

お問い合わせ先：03-3454-5415

定員になり次第、入場をお断りする場合がありますので、あらかじめご了承ください。

【期日】令和2年2月5日(水)

【時間】15時00分受付

16時00分開会

20時20分閉会

【会場】有楽町よみうりホール



【第1部】

16時00分講演 愛知専門尼僧堂堂長 青山俊董老師  
17時30分いす坐禅

【第2部】

18時30分映画『典座-TENZO-』上映  
19時30分休憩  
19時40分対談

愛知専門尼僧堂堂長 青山俊董老師  
映画監督 富田克也氏  
出演者 河口智賢師





# 今こそ問う、 仏教とは？ 信仰とは？

10年前、大本山での修行期間を終えた先輩僧侶の隆行（リュウギョウ）と後輩僧侶の智賢（チケン）は、自らの生まれた寺へとそれぞれ戻っていった。富士山の裾野に広がる山梨県都留市、耕雲院。智賢は、住職である父と、母、妻、そして重度の食物アレルギーを抱える3歳の息子と共に暮らしている。全国曹洞宗青年会副会長としての顔を持ち、いのちの電話相談、精進料理教室、ヨガ教室、坐禅会など、意欲的な活動を続けている。

一方、隆行は福島県沿岸部にあった寺も、家族も檀家も、すべてを津波によって流されてしまった。今では瓦礫撤去の作業員として、ひとり仮設住宅に住まいながら本堂再建を諦めきれずにいた。

仏に仕える僧侶も、ひとりの人間。仏教は果たして必要とされているのか？ 今こそ本当に信仰が求められる時代なのではないか。苦悩しながらも仏道に生きる若き僧侶の姿、そして高僧・青山俊董のことばを通じて、映画は驚くべき境地に観客を誘うことになる。

## 典座とは

曹洞宗の寺院や修行道場である僧堂における僧侶や参拝者の食事を司る役職。典座は、六知事（ろくちじ）という重要な6人の役職のうちの欠かせない1人であり、典座の教えは調理のみならず仏道を歩むうえでとても大切な教えを多く含む。



『典座 -TENZO-』 2019年 / 62分 / DCP / ビスタ / 5.1ch

<http://www.kuzoku.com/>

## 【青山俊董(あおやま しゅんどう)】

1933年、愛知県一宮市に生まれる。5歳にして長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。15歳で得度、愛知専門尼僧堂に入堂修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、1964年より愛知専門尼僧堂に勤務。1976年より同僧堂堂長を務める。1984年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。1979年・1987年東西霊性交流の日本代表として訪欧、修道院生活を体験。1971年・1982年インドを訪問。仏跡巡拝、並びにマザー・テレサの救済活動を体験。参禅指導、講演、執筆に活躍するほか、茶道、華道の教授としても禅の普及に努めている。2004年3月女性では2人目の仏教伝道功労賞を受賞。2009年曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて任命される。

著書：『生かされて生かして生きる』

- 『仏のいのちを生死する』
- 『わが人生をどう料理するか』上・下
- 『禅のことばに生き方を学ぶ』
- 『あなたに贈ることばの花束』
- 『花有情』（以上、春秋社）
- 『新・美しき人に』（パンタカ）
- 『道元禅師・今を生きる言葉』（大法輪閣）

## 『典座』監督・脚本【富田克也】

1972年、山梨県に生まれる。脚本家・映画監督の相澤虎之助らとともに映像制作集団・空族(くぞく)を率い、中上健次、柳町光男に多大な影響を受け制作に4年を費やした処女長編『雲の上』(2003年)、地方都市のロードサイドに生きる荒んだ若者を描いた『国道20号線』(2007年)を発表。続いて寂れゆく日本経済を背景に、肉体労働者、移民、そしてヒップホップをテーマに制作した『サウダージ』(2011年)では、“ナント三大陸映画祭”グランプリ、高崎映画祭最優秀作品賞、毎日映画コンクール優秀作品賞&監督賞をW受賞するなど数々の賞に輝いた。その後、タイおよびラオスにて長期滞在制作を行った『バンコクナイト』(2016年)は、20世紀のインドシナ半島での戦争の傷跡をトレースしつつ、複層的な物語構成によって、東南アジアから現代日本を逆照射し、ロカルノ国際映画祭など世界の約30の海外映画祭に招待。国内では、第72回「毎日映画コンクール」にて監督賞、音楽賞をW受賞。その年の「キネマ旬報ベスト10」では6位に選出された。



出演：河口智賢、近藤真弘、倉島隆行／青山俊董  
監督：富田克也／脚本：相澤虎之助、富田克也  
プロデューサー：倉島隆行  
アソシエイトプロデューサー：小山内照太郎、大野敦子、筒井龍平  
撮影：照明：スタジオ石／録音・整音：山崎巖  
編集：富田克也、古屋卓磨  
音楽：石左口竹の会  
Suri Yamuhli And The Babylon Band  
NORIKIYO  
題字：藤田嘉彦  
デザイン：今村寛／ウェブ・デザイン：山田俊哉  
スチール：山口貴裕／VFX：定岡雅人  
製作：全国曹洞宗青年会  
宣伝：岩井秀世／配給：空族

© 空族

## 《有楽町よみうりホール》 東京都千代田区有楽町 1-11-1 読売会館 7階 TEL. 03-3231-0551 FAX. 03-3231-4847

- (交通のご案内) ●JR 山手線／京浜東北線・有楽町駅 ————— 国際フォーラム口よりすぐ  
●地下鉄 東京メトロ 有楽町線・有楽町駅 ————— D4 / D6 出口  
東京メトロ 日比谷線／千代田線・日比谷駅 ————— A2 出口より徒歩3分  
東京メトロ 丸の内線／銀座線・銀座駅 ————— C9 出口より徒歩5分  
都営地下鉄 三田線・日比谷駅 ————— D4 / D6 出口

※当ホールには専用駐車場はございません。  
周辺の有料駐車場をご利用下さい。

